

～大阪府からの1ターン

塚本麻衣さんへの

インタビュー

- 職業：茶問屋 茶重商店
- 家族構成：夫婦と主人のご両親
- 移住歴：3年
- お気に入りのスポット
御城番屋敷



戦国武将の蒲生氏郷により城下町が発展し、古くから木綿などをはじめ多様な産業を有する「豪商のまち松阪」。ご主人が家業を継ぐため一緒に移住したのが塚本 麻衣さんだ。ご主人の実家は創業150年にもなる老舗のお茶屋さんで、代々引き継がれた製造へのこだわりは今も息づいている。

——移住に不安や苦労がありましたか？

当時、陶器やお茶の知識が無かったので仕事面での不安はありましたが、移住自体の不安はありませんでした。ただ、当初の予定とは違う苦労があり、夫の実家で同居しているんですが、会社員から自営業になり自分の時間やリズムをつかむのに時間がかかりました。また、車の運転については実家の長野県とはタイミングやリズムが違うことに戸惑い、初めは上手く出来なくて慣れるのに半年ほどかかりました。

——どんなところが気に入っていますか？

お客さんとの会話が楽しいですね。都会は都会の良さがありますが、田舎は田舎で落ち着くので好きです。

『御城番屋敷の景色や桜の季節が綺麗な町』

ここは都会にも行きやすい土地で、海の幸・山の幸・何でもあり食べものがおいしい町、名所を見て歩くだけで楽しいし、車があれば山奥も行けてもつと楽しめますよ。

——あった方が良いと思うものは？

レンタサイクルや自転車利用者が多いのですが車道に出て危ないので、広い道路は「人」と「自転車」と「車」に分けて道路を整備したら良いと思います。

——松阪暮らしはどうですか？

「店にすることが多いからか、手芸や庭造りなど自分で物を作ることを楽しめるようになりました。松阪では自分で小物などを作る人が多いので、分らないことは人に聞いたり、野菜のおすす分けをしたりしています。そのおかげか商店街の中で、話せる人が

増えてきましたし、同じ年齢の友達が出来て飲みに行ったりします。サークル活動などで話す人が出来ましたし、良い人ばかりなので思い切って話をしていくと繋がりが増えていくまちです」と交友関係の広がりを感じているようだ。

